



## 私の戦争体験 No.2

## 二等兵として庶民としての戦争体験



カナルガル島に上陸する米海兵隊——わずかな飛行場設営しかないガルナル島に対する米軍の上陸は、本格的な水陸両用作戦の最初であった。南太平洋方面指揮官ゴムレー中将のもとに、空母3、巡洋艦1、巡洋艦14その他の艦艇の支援のもとに海兵1個師団2万の兵力を上陸させ、戦力のほとんどない日本軍を圧倒した。(『昭和の歴史』集英社より)

「撤収」という美名を

使っていたが、大敗北

であること、美國民が

肌を感じていたであ

る。この頃気の喪失を

機に戦況は日本に悪

化して、國民生活もいち

だんと逼迫しゆくの

であるが、軍隊にいる

かぎり、なお食糧欠乏

の実感はなかった。ア

メリカ軍の日本全土大

空襲、また本格化は

してしまった。

この微端に繊敏に察

はすの一般社会に復帰したその日から始ま

る。主食の米、副食の牛肉・魚肉・野菜な

どは、ほとんどすべて、そのころすでに敵

機に配給制度下にあった。その一回の配給

量は、とても成りが健全な人間生活を維持

するに足るものではない。足らざるを補

う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

使う。この頃気の喪失を

志一郎

戦争体験を読まれて、いかがでしたか。  
平和のための委員会は、首謀に次のじ語  
力をお願いしています。  
読んだ感想・意見をお聞かせ下さい。  
戦争体験を読んだ感想や意見を見非ね寄  
せばさい。字数、形式に制限はありません。  
体験記や資料・写真をお寄せ下さい。  
戦争中の体験や貴重な写真・遺品・記念  
品。

員会(内六六四〇事務局小塚和行)まで。

## 感想と体験記

のお願い



品・諸  
資料の  
紹介

第二次世界大戦のあいだ、わたしは戦地に赴いたことがあります。したがって戦闘の実験はない。しかし、いわゆる赤紙召集令状を受け、昭和十七年八月ばかりから百日間を、最下位の陸軍二等兵として出征したことがあります。その百日間に、たゞ一日も休まず、そのころ空襲からぬ「ガルナル島」に派遣され、のち同期召集兵の大部

分は、「ガルナル島」に派遣され、のちに「カナルガル島」に派遣され、のちに百日後、健康すぐれずとの名目で召集解除となり、わたしは大学の研究室に復帰したが、わたしの除隊にさしだいの推定でしかない。

いついては軍事機密として、戦闘のなかに纏わる特殊社会の束縛を脱して、自由である世人の窮屈をよそに、わたしは軍隊内部で飽食していた。戦地での激烈な戦闘をして、國內某地の重慶でございました。その百日間は、わたしは軍人の制服を着て、その百日間は、わたしは人間殺すための実彈は、ときどきの演習でしか扱つたことはなかった。わたしの戦争ゆえの苦悶は、むしろ軍隊といふ特殊社会の束縛を脱して、自由である

勤務は急性伝染病種。

勤務は急性伝染病種。